

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.123

2010年7月15日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

子どもとともに学びを創造する

「新学習指導要領の移行期における実践を考える講座」開催

7月3日(土)、「新学習指導要領の移行期における実践を考える講座 2010 ～生きる力を育む総合学習～」を開催しました。

講演会(演題:「激動期の授業改革の実践と未来」 講師:善元幸夫さん〈琉球大学教育学部講師 全国教研総合学習分科会共同研究者〉)のあと、「新学習指導要領下での総合学習」をテーマとして意見交流をおこないました。

(兵教組ホームページ「兵教組ニュース」に概要を掲載)

参加者の感想から

◆子どもを中心にすえた学びを

- ・ 善元先生のお話をうかがい、現在現場で抱えている問題や不安と重なる部分があって、授業・教材ともっと向き合い、子どもを中心にすえて考えていかないとはいけなかったと思います。移行期ということで、授業時数と内容が大幅に増え、総合学習について考える余裕がなくなっているように思います。また、子どもたちの様子を見ていると、「学び方」を知らないように感じる事が多く、その部分は大切にしたいと考えていたのですが、新学習指導要領では知識・技能を大切にしようとしていると聞いて、子どもたちに、どのようにして、どのような力をつけていったらいいのかと考えさせられました。
- ・ もやもやしていたものがなんだかすっきりする講演でした。多忙化の中で見失われていたもの、それこそ授業研究であり、その先にある子どもの学びでした。ちょうど「多忙化解消が教育の質向上の最短ルート」と話していたところなので、総合学習も見直しながら、日々の勤務内容も見直しとりこんでいきたいです。
- ・ 「ムダな時間があっていい」というのが心に残りました。日々の学習、総合の授業でも何か型にはめようと子どもたちを導いていたように思います。教師が答えをわかっているなくても、子どもたちとともに答えを見つけていく方法もあるということを理解しました。
- ・ 総合学習が始まったころ、何をするか子どもと議論を重ねてテーマを決め、子どもとともに調べ方などを話し合ったことをあらためて思い出し、総合学習の原点を考えさせられたように思います。
- ・ カリキュラムについて、学習指導要領に定められた学習内容を次々となしていくことが果たして今の時代に合ったカリキュラムなのかと考え直す機会になりました。たくさんの無駄や試行や遊びが学習に必要と再認識しました。総合学習では正答を求めるのではなく、違いや新たな疑問を生み出すことが大切だとわかりました。指

導者も楽しむことが必要です。地域教材はすべて人材・素材・環境を楽しむことだと思います。

- ・最初に疑問ありき、正解主義から解放される、指導案を見ておこなう授業など、今までなんとなく疑問に思っていたことを初めてこういう場で聞いた気がします。目の前の子どもを見ながら日々がんばっていきたいです。
- ・教科書のない学習でどのようにすすめたらいいかよくわかっていませんでしたが、うまくいかななくてもいいんだ、子どもたちの疑問を追求していくことが大切なんだと感じました。

◆ “授業で勝負する” ということ

- ・何よりも善元先生が生き生きと楽しみながら講演されているのが印象的でした。私たち教師が生き生きと授業にとりくむことが子どもたちにとっても魅力的な授業につながるのだと思いました。忙しい中ではありますが、やはり何とか教材研究の時間を確保していくことが必要だと思います。
- ・善元先生のお話をお聞きして、総合学習の原点を思い出しました。今、私の学校では、学力向上・道徳性育成などの研究に力をそそぐ方向にあり、「総合学習離れ」の傾向にあるのが現実です。総合学習が導入され研究をすすめていたところに、「研究をすすめる時間が充分とれない」「打ち合わせの時間がとれない」といったことが一番のネックとなり総合へ力をそそぐことができなくなり、中途半端な形で苦しみがすすめています。教師が苦しいのですから、当然子どもにとって楽しい総合になるわけがありません。善元先生の言われるように、思い切って何かをカットしていく決断が必要だなどと思いました。
- ・一つの方向性を自分自身得られたように思います。授業は大切と再認識できたし、できること・できないことについて明確な尺度を持つことが大切だと思えました。
- ・「教え」から「学び」への転換（子どもを中心にすえた授業づくり、学びの共同体を意識した学級づくり）の大切さがよくわかりました。新学習指導要領実施後も、子どもたちを中心に、授業で勝負していききたいとあらためて感じました。また、たくさんの方の授業実践例を紹介していただき、とても楽しく聞かせていただきました。今後の実践の参考にしていきたいと思います。ただ、自分の生活を考えると、総合だけでなく、国語も算数も社会も理科も道徳も…教材研究をすべての教科で十分におこなうための時間がないなあと感じます。子どもを中心とした楽しい総合の授業を構築するために、時間をどうつくり出すかという自分の課題が見えました。
- ・「教師は授業で勝負！」私も同感です。悩みの種である総合学習や外国語活動について、たくさんヒントをいただきました。
- ・「教師は授業が勝負」とは、置き換えると「教師は発想力が勝負」だと思いました。何かおもしろいことはないか、目の前の子どもは何を求めているのか、何が必要なのかをもっともっと真剣に考えていききたいと思います。
- ・私は新任の栄養教諭です。私自身が子どもの頃に栄養教諭はいませんでした。毎日手探りでがんばっています。その中で今日は、総合学習に注目してお話を聞いたので、とてもおもしろかったです。「先が見えない授業を」というのがとても印象的でした。子どもたちにとっておもしろい授業をこれからもたくさんしていきたいと思っています。